

「GIGA スクール構想」時代のICT活用ガイド ー ICT活用レシピ高等学校版 ー ダイジェスト版

埼玉県立総合教育センター

はじめに

新学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力の一つに改めて情報活用能力を位置づけ、各教科におけるICTを活用した学習活動の一層の充実を目指しています。

また、「GIGAスクール構想」への対応により、本県においても令和2年度末にはBYOD用高速大容量通信ネットワークの整備が相当程度進む予定です。今後、各学校ではICTを積極的に活用して生徒一人一人に個別最適化された学びを実現することによって、創造性を育み、資質・能力を確実に育成することが重要です。

県立総合教育センターでは、この度、各学校のICTを活用した学習活動を支援するため『GIGAスクール構想』時代のICT活用ガイド』を作成しました。ガイドでは、BYOD環境における具体的な学びのイメージを示すとともに、指導にすぐ活かせるようICT活用レシピを教科ごとに掲載してあります。本冊子は、その概要を示したダイジェスト版です。

各学校におかれましては、昨年発行の「令和2年度高等学校ICT活用事例集」と併せて、「GIGAスクール構想」時代のICTの一層の活用に向けて参考にさせていただくようお願いします。



埼玉県マスコット「コバトン」

ICTを効果的に活用した学習場面

○一斉学習

A1 教師による教材の提示：電子黒板等を用いた分かりやすい課題の提示

○個別学習

B1 個に応じた学習：一人一人の習熟の程度などに応じた学習

B2 調査活動：インターネット等による調査

B3 思考を深める学習：シミュレーション等を用いた考えを深める学習

B4 表現・制作：マルチメディアによる表現・制作

B5 家庭学習：タブレットPC等の持ち帰りによる家庭学習

○協働学習

C1 発表や話し合い：考えや作品を提示・交換しての発表や話し合い

C2 協働での意見整理：複数の意見や考えを議論して整理

C3 協働制作：グループでの分担や協力による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習：遠隔地の学校等との交流



ダイジェスト版では、学習場面の一部を紹介しています。詳細は、本編をご覧ください。

レシピ① 高等学校 国語 国語総合 小説「羅生門」



C 1 発表や話し合い（15分）

◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した感想・疑問点をその場で共有し、他者の意見から学ぶ機会を設定する。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
①	○初読の感想・疑問点を書く。 ○場面の变化に注意し、全体を4つに分ける。 ○単元の学習の見通しをもつ。	◆疑問点を挙げることで課題意識をもって授業に参加させるとともに、他者の感想や疑問に触れ、気づきを与える。 活用レシピ① C1 ◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した感想・疑問点をその場で共有し、他者の意見から学ぶ機会を設定する。
学習課題 「下人」の行方を推測しよう		
②	○本文より「下人」と「老婆」の人物描写をまとめ、人物像をグループで話し合う。	◆比喩表現などにも注意させ、本文を根拠とし、話し合わせる。
③	○雨やみ待つ場面における下人の心情を理解する。	◆心情を表す表現や、情景描写、行動などから総合的に心情を捉えさせる。 ◆論理的に出した結論を心情的には認められない点に留意させる。
④	○老婆と出会った場面における下人の心情変化を理解する。	◆老婆の行動により、下人の心情がどのように推移していくのかに注目させる。
⑤	○老婆の弁明と下人の決断を読み取る。	◆下人の奮闘と老婆の論理との関わりを捉えさせる。
⑥	○「羅生門」と「羅城門」とを比較読みする。	◆冒頭部分や結末の設定の違い、人物描写の違いなどに注意することで、作者が作品に込めた意図や思いを考えさせる。 活用レシピ② C2 ◎ Google Jamboard を活用し、『羅生門』と『羅城門』の相違点をまとめ、作者の意図や思いを考えさせる。
⑦	○比較から見てきたことを踏まえ、「下人」の行方を推論する。	◆具体的に推論させるとともに、理由もあわせて考えさせる。

【使用するアプリ等】 Google フォーム

Google スプレッドシートにより共有することもできる



感想を読み上げたり、生徒相互で確認させたりし新たな気づきを与えることで学習意欲を高める

レシピ② 高等学校 地歴・公民 現代社会「持続可能な開発目標(SDGs)と私たち」



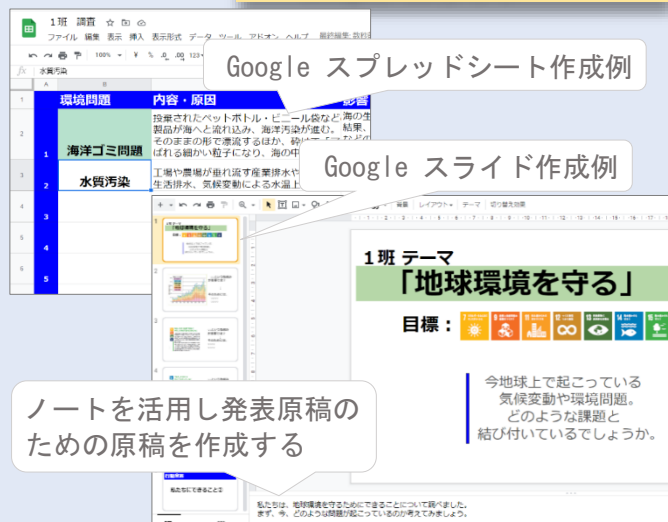
C 3 協働制作（150分）

◎情報収集をし、調べた内容を共有させる。また、プレゼンテーションアプリを活用し発表資料を作成する。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT活用例
①	○持続可能な開発目標(SDGs)とは何かを理解する。	◆具体的事例を紹介し、課題意識をもたせる。 活用レシピ① A1 ◎ プロジェクタを活用して関連動画を視聴し、SDGsの策定の経緯や現代の世界の諸課題について理解させる。
②	○SDGsの17の目標でダイヤモンドランキングを作成する。	◆他者に説明できるよう、ランキングの理由も考えさせる。 活用レシピ② C2 ◎ Google Jamboard を活用し、ダイヤモンドランキングを作成させる。 ◆ランキングが似ている生徒で4、5人のグループをつくり、共有させる。
学習課題 SDGs 私たちが取り組むべき課題は私たちにできることは		
③	○グループごとに、選んだ目標について、世界の現状や目標達成までの課題を調べる。	◆調べる項目や内容について、ある程度の方向性を持たせる。 ◆複数のサイトで調べ、情報の信頼性にも注意するよう促す。 活用レシピ③ C3 ◎ Chromebook を活用し、情報収集をさせる。調べた内容は Google スプレッドシートで共有する。また、画像やグラフなどは Google ドライブで共有する。
④	○世界や日本での取り組みを調べ、自分たちにできることを考察する。	◆ Google Jamboard を活用し、自分たちにできることを話し合わせる。
⑤	○発表資料を作成する。	◆グループごとに資料を作成させる。 活用レシピ③ C3 ◎ グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。
⑥	○グループごとの発表 ○学習のまとめ	◆事前に発表の仕方を確認しておく。 ◆ Google フォームを活用し、相互評価を行う。 ◆他のグループの発表を踏まえ、自分の考えを書かせる。

【使用するアプリ等】 Google スプレッドシート Google スライド



ノートを活用し発表原稿のための原稿を作成する

今地球上で起こっている気候変動や環境問題。どのような課題と結び付いているでしょうか。

レシピ③ 高等学校 数学 数学B「空間座標とベクトル」



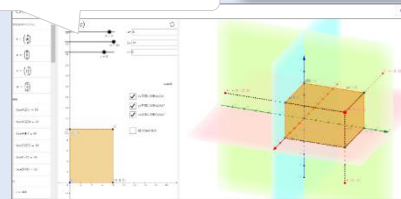
B 3 思考を深める学習（20分）

◎ GeoGebra（ジオジェブラ）を活用し、実際に空間座標について視覚的に把握する活動を行う。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT活用例
①	○空間座標について導入する	◆座標の概念を平面から空間に拡張させるため、視覚的な仕掛けが重要となる。	活用レシピ① B 3 ◎ GeoGebra（ジオジェブラ）を活用し、実際に空間座標について視覚的に把握する活動を行う。
②	○空間のベクトル	◆平面のベクトルと比較しながら、空間でのベクトルの扱いについて導入を行う。	◎前時で使ったアプリ等を黒板に投影するなどして、生徒の理解をサポートする事もできる。
③	○空間のベクトルの成分	◆平面のベクトルでの学習事項を、空間の概念にそれぞれ対応させるだけに留まらず、視覚的なイメージを持たせる事が理解を深める事につながる。	
④	○空間のベクトルの内積		◎空間における2つのベクトルのなす角などは、アプリを用いて黒板に投影するなどすると、生徒の理解の補助となる。
⑤	○空間の位置ベクトル		活用レシピ② B 1 ◎ Google フォームを活用し、小テストを実施する。 また、集計などから事後指導にも役立てる。
⑥	○応用問題	◆既習事項を活用する内容にとどまらず、そこから更に新たな発見ができるような問題設定を行う。 例：ベクトルの終点の存在範囲の問題 → 係数 s, t, u を変数化させながら考察	活用レシピ③ C 2 ◎ Google ドキュメントの共同編集機能を活用し、思考する事によって出された意見の集約と共有を行う。

教師が教材作成



生徒が実際に動かして理解を深める

生徒が使えるよう設定



生徒が入力



生徒が入力

レシピ④ 高等学校 理科 地学基礎 地球の変遷「宇宙、太陽と地球の誕生」



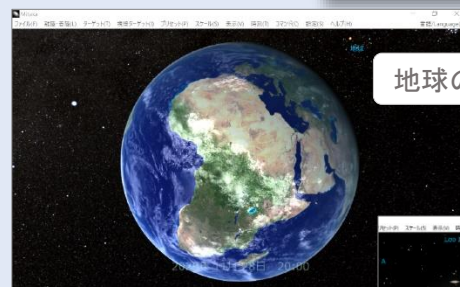
B 2 調査活動（40分）

◎ Mitaka（ミタカ）を活用し、太陽系や大規模構造について理解を深める。

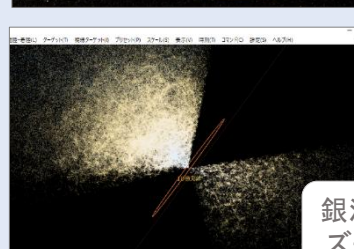
【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT活用例
①	○太陽系の構造と銀河系の構造をつかむ	◆宇宙における時間と空間の感覚を養い、宇宙空間がいかにスカルスカな空間であるかを認識させる。	活用レシピ① B 2 ◎ Mitaka（ミタカ）を活用し、太陽系や宇宙の大規模構造について理解を深める。
	学習課題 宇宙空間の中で地球だけ生命が存在できる理由を考えよう		
②	○地球の形成の歴史を理解する	◆大気組成、海洋、地球内部の層構造を形成する経緯をマグマオーシャン等の難現象と関連付けさせる。	
③	○太陽系の誕生、地球型惑星と木星型惑星の違いを理解する	◆太陽からの距離と惑星の成分について、太陽系の形成モデルと関連付けさせる。	
④	○太陽系天体の特徴を理解する	◆惑星の他にも、衛星、小惑星などに触れ、各天体の特徴を捉えさせる。 ◎再度「Mitaka」を活用し、様々な天体の特徴について調べる。また、必要に応じて、川口市立科学館のホームページや「アプリ Solar Walk」なども紹介する。	
⑤	○学習内容のまとめ	◆宇宙空間の中で地球だけ生命が存在できる理由を、グループごとにまとめ、発表資料を作成させる。	活用レシピ② C 3 ◎グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。
⑥	○発表資料の作成		
⑦	○学習内容の振り返り	◆各グループの発表を参考に、自分の考えを整理させる。 ◆生徒の実態に応じて、生命の存在理由について、発表内容以外の理由を考えさせる。	

【使用するアプリ等】
Mitaka（ミタカ）



地球の全体像を見る



銀河系、宇宙の果てまで
ズームアウトする



レシぴ⑤ 高等学校 保健体育 保健「現代社会と健康」



C 3 協働制作（100分）※50分×2

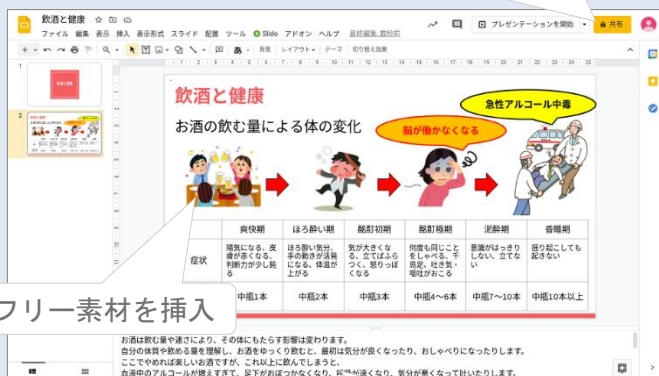
◎班ごとに Google スライドの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT活用例
①	○オリエンテーション ○テーマの決定	◆班ごとにテーマを決め、その内容についての理解を深めさせる。	
②	○教材研究 ・学習のねらいの設定 ・授業案の作成	◆テーマについて理解を深め、学習のねらいを明確にさせる。 ◆授業案を作成し、活動の見通しを立てさせる。	◎ Google ドキュメント（班で共有し編集する。）
③	○教材研究 ・スライドの作成	◆授業案に沿ったスライドを作成させる。 ◆教科書に準拠した内容で作成させる。	◎ Google スライド（班で共有し編集する。） 活用レシぴ① C 3 ◎班ごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。
④	○教材研究・授業準備 ・スライドの作成 ・リハーサル	◆発表方法を説明し、発表に向けてリハーサルさせる。 ◆班員全員が同じレベルで発表できるようにする。	◎ Google スライド（班で共有し編集する。）
⑤	○授業準備 ・リハーサル ○発表・評価	◆各グループに分かれて発表させる。 ◆発表後、評価させる。	◎ Google スライド ◎ Google フォーム
⑥	○発表・評価	◆グループで出た質問等は一度班に持ち帰り、班でまとめて答える。 ○グループで答えられない場合は、支援する。	活用レシぴ② C 2
⑦	○発表・評価	◎班ごとに全体で発表し、発表に対する評価や質問等をする。	
⑧	○解説	○生徒が発表した内容を補足説明する。 ◆発表で理解できなかった内容を再度学習・整理させる。	

【使用するアプリ等】
Google スライド

Google スライドを共同編集で作成



図やフリー素材を挿入

ノートに読み原稿を作成し共有させる

レシぴ⑥ 高等学校 外国語 英語表現Ⅱ「英語でニュース番組を作ってみよう」



C 1 発表や話し合い（20分）※10分×2

◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した感想・疑問点をその場で共有し他者の意見から学ぶ機会を設定する。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT活用例
①	○現在深刻になっている社会問題について知る	◆難しい社会問題も、高校生向けにシンプルにわかりやすくまとめて提示する	◎ YouTube 等であるトピックの動画を全員で視聴し、生徒に問題の提起を行い、取り組むべき内容を把握させる。
学習課題 ～について、多くの人に問題提示しよう			
②	○それぞれが、その問題に関して、どう思うかを考える	◆いろいろな意見が許されるということを事前に周知しておく	活用レシぴ① C 1 ◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した意見・感想・疑問点をその場で全体共有。他者の意見に触れる。
③	○詳細について、情報収集	◆個別学習。各々で情報収集を行う。	◎各パソコン、タブレットの検索エンジンで詳細を調査。
④	○発表資料の作成	◆問題になっている点について、班ごとに資料を作成させる。	活用レシぴ② C 3 ◎グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。
⑤	○班ごとの発表 ○発表内容に関するコメント（意見・質問等） また、そこから見えるものを考える	◆事前に発表の仕方を確認しておく。発表は動画として記録。	◎ Google フォームを活用し、生徒が入力した意見・感想・疑問点をその場で全体共有。他者の意見に触れる。
⑥	○発表内容を動画にする ○他の班の動画視聴 ○他校への公開、発信	◆動画は要点を抑え、短めに作成する。 ◎動画編集ソフトを使用し、それぞれの意見、状況を編集し、まとめる。復習として動画の視聴をする。	

【使用するアプリ等】
Google フォーム



Google フォームのQRコードを作成

What do you think about the Galapagos Islands?

フォームの説明

Is it a paradise for the animals and plants? ☐ ラジオボタン

説明

☐ I think so

☐ No, I don't think so.

☐ It depends

☐ 選択肢を追加 または 「その他」 を追加

Google フォームで小テストを実施

レシピ⑦ 高等学校 家庭 家庭総合「食生活の科学と文化」



B 5 家庭学習（50分）

◎ Google Classroom への課題提出と実践中の質問の受付をし、実践報告書を作成して提出させる。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT活用例
①	○食生活を取り巻く課題 食の安全と衛生、日本と世界の食文化について理解する。	◆教師が生徒の実態把握をするため、生徒の現状理解と課題発見につなげる。	活用レシピ① C1 ◎ Google フォームを活用し、自分・家族の食生活実態アンケートを実施する。
②	○栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活についての理解と技術を身に付ける。	◆指導の効果を高めるための実験・実習を用いる。	活用レシピ② A1 ◎ Google スライド、書画カメラ、テレビモニタ、プロジェクタを活用して、理解を深めるための環境整備を行う。
③	○OHP（ホームプロジェクト）の計画	◆生徒が課題解決策を検討時に情報収集するための環境整備に配慮する。	活用レシピ③ B5 ◎ Google Classroom の動画を視聴して、実習の反転学習及び実習中の作業を確認する。
④	○OHPの実践（宿題）	◆休業中の生徒対応が可能な環境をつくり、生徒のより良い実践につなげる。	活用レシピ④ B2 ◎ Chromebook を活用した情報収集及び実践計画を作成する。
			活用レシピ⑤ B5 ◎ Google Classroom への課題提出と実践中の質問の受付し、実践報告書を作成して提出させる。

【使用するアプリ等】 Google Classroom

生徒は課題を Google ドライブに提出する



Google Classroom の「授業」に課題の指示・提出期限についての連絡と課題資料を添付する

レシピ⑧ 高等学校 情報 社会と情報「情報社会に関する法規や制度と個人の責任」



C 3 協働制作（150分）

◎ Google フォームで、学んだことの小テストと解答を作成する。さらに Google スライドの共同編集機能を活用して、問題の解説を発表するための資料を作成する。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT活用例
①	○個人情報の保護 情報セキュリティ 暗号化	◆ Google Classroom を活用した授業展開により、課題提示、提出、共有、発表、評価を一元化していく。 ◆共有するファイル等は事前に教員が設定しておく。または、中間モニタを用いて、生徒を誘導しながら共有設定する。	活用レシピ① C2 ◎ Google Jamboard を利用して、グループごとに情報セキュリティについての意見を出し合う。
②	○知的財産権 著作権 産業財産権	◆Web サイトを参考に最新の情報や権利の具体例を調べる 例 CRIC（公益社団法人著作権情報センター） https://www.cric.or.jp/ J-PlatPat（特許情報プラットフォーム） https://www.j-platpat.inpit.go.jp/	
③	○共同編集による	◆前時までの内容についてグループごとに深め、テーマを決めて共同編集を行う。テーマに関する択一式問題を複数作成するとともに、解答についての解説をグループで作成する。	
④	Web 小テストの作成	◆共有するファイル等は事前に教員が設定しておく。または、中間モニタを用いて、生徒を誘導しながら共有設定する。	
⑤	解説用発表資料作成		活用レシピ② C3 ◎グループごとに次の2つを作成する。 1) Google フォームを利用して、学んだことに関する小テスト問題、解答を作成する。 2) プレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、問題の解説を発表するための資料を作成する。
⑥	○成果物について Web 小テストへの回答 グループごとの発表	◆各グループが作成した問題に取り組み、正答数をグループごとに競う。解答後、各グループから問題の解説を発表する。 ◆教員が表計算ソフトを用いて、グループごとの正答数を可視化して瞬時に比較できるようにする。	

【使用するアプリ等】 Google フォーム Google スライド

Google フォームでの小テスト作成例



共同編集で作成した
Google スライドの例

レシピ⑨ 高等学校 工業 原動機「自動車の発達と社会生活」



B 1 個に応じた学習（15分）

◎蒸気自動車・ガス機関・電気自動車・ガソリン機関の良い点と悪い点を
Google フォームに記入する。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT活用例
①	○自動車の発達と原動機	◆自動車の発達と搭載された原動機について学び、さまざまな発明と改善について理解させる。 活用レシビ① B 1 ◎蒸気自動車・ガス機関・電気自動車・ガソリン機関の Google フォームにて良い点・悪い点を記入。	
②	○自動車と社会と環境	◆自動車の普及とともに、大気汚染や振動、騒音などの環境問題および対策について調査する。 活用レシビ② B 2 ◎ Google Jamboard に世界地図を貼り付け、各国で打ち出している環境対策について話し合わせる。	
③	○自動車と社会と環境の協議	◆日本で環境対策をするための方策を考える。 活用レシビ③ C 2 ◎ガソリン推進派とEV推進派でグループ分けして長所と短所、問題点などを Google スプレッドシートで共同編集機能を活用してまとめる。	
④	○自動車の分類と構造	◆原動機の位置や駆動方式、法律による分類について理解させる。 活用レシビ④ B 1 ◎ Google フォームにて、原動機の位置と駆動方式について的小テストを行う。	
⑤	○動力特性と走行性能	◆自動車の性能評価事項である動力性能・走行性能について学び、安全走行に必要な性能を確認する。走行時に発生する抵抗因子を理解させ、走行性能線図を読み取る。	
⑥	○自動車の制動性能とタイヤ特性	◆安全に操縦させるためのブレーキ操作やかじ取り操作について学び、制動特性について理解させる。	
⑦	○学習問題の振り返り ○発表資料の作成	◆ここまで学んだことを振り返り、ガソリン推進派とEV推進派で混合編成した班を作成し、班毎に資料を作成し発表させる。 活用レシビ⑤ C 3 ◎グループごとに Google スライドの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。	

【使用するアプリ等】 Google フォーム

授業終わりに Google フォームで
小テストを行うことを告知する

蒸気自動車の良い点

回答を入力

蒸気自動車の悪い点

回答を入力

ガス機関の良い点

回答を入力

長所・短所を簡潔にまとめられるように板書を工夫

レシピ⑩ 高等学校 商業 マーケティング「市場調査」



C 2 協働での意見整理（20分）

◎ Google Jamboard を活用し、アイデアを出し合う。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT活用例
①	○調査の目的や対象を話し合う。	◆マーケティングに主体的にかつ協働的に取り組む姿勢を促す。 ◆グループごとに調査の対象を決定させ、活動の最後に他のグループへの発表につなげるよう意識させる。	
②	○調査する内容について、アイデアを出し合う。	◆ブレインストーミングのルールを確認する。 活用レシビ① C 2 ◎ Google Jamboard を活用し、アイデアを出し合う。	
③	○調査項目の検討を行う。	◆アイデアを取捨選択し、調査目的や対象にあった調査項目になるように注意を促す ◎ Google スプレッドシートを活用し、調査項目やアンケート項目のリスト化を行う。	
④	○調査目的に合った項目となるよう、さらに精査する。	◆グループでの話し合いを通して、アンケートに必要な項目を決定させる。	
⑤	○調査項目を決定し、アンケートの作成を行う。	◆アンケートの趣旨や選択肢による分岐を考慮しながら、目的に沿ったアンケートが作成できるように工夫を促す。 活用レシビ② C 3 ◎ Google フォームを活用し、調査項目やアンケート項目を作成する。	
⑥	○作成したアンケートを確認し、実施アンケートのテストを行う。	◆自分たちで実際にテストをしてみて、答えやすいアンケートかどうか検討する。	
⑦	○作成したアンケートを他のグループに対して実施する。	◆作成した目的やアンケートの趣旨を発表し、実際にアンケートを行うとともに他のグループからの意見をもらう。 ◆アンケートの回答をもとに、調査分析につなげることを意識させる。	

【使用するアプリ等】 Google Jamboard

調査する目的や対象を確認し
調査内容のアイデアを入力する



他の人のアイデアに自分のアイデアを追加する



C2 協働での意見整理（50分）

◎ Google Jamboard を活用して、近隣の取組を挙げながら、支援方法を出し合う。

【活用の流れ】

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT活用例
①	○日本における社会福祉	◆今までの取組みや地域福祉の成立について、理解させる。	
②	○障害者福祉の新しい取組み、我が国の具体的な実践について	◆我が国の具体的な実践が、分かりやすい様に配慮する。	活用レシぴ① B1 ◎ Google フォームを活用して、生徒の理解度をアンケート調査を実施する。
学習課題 少子化対策から、望ましい社会を考えよう			
③	○子育て支援と保育について	◆具体的な支援について理解につながる教材を活用する。	活用レシぴ② C2 ◎ Google Jamboard を活用して、近隣の取組を例に挙げながら、支援方法を出し合う。
④	○少子化対策を考える	◆前時に学習した支援方法から驚がりをもたせ、どの様な社会が望ましいのか理解し、自分の意見が持てるようにする。	活用レシぴ③ C3 ◎ 班の意見をまとめ Google スライドを活用して、発表用のスライドを作成する。

【使用するアプリ等】
Google Jamboard

グループで共有する



各項目について付箋機能を活用して
情報を整理し具体的な対策を考える

おわりに

今後、ICT環境の整備が加速度的に進む中、各学校においては、より一層のICTを活用した指導方法の研究、実践が求められます。本ガイドには、教員一人一人がICTを活用した各教科の指導ですぐに使える具体的なアイデアを掲載してあります。本編は、県立総合教育センターのホームページで御覧いただけますので、御活用ください。

URL : <https://www.center.spec.ed.jp/ict活用ガイド>

また、その他にも様々な場面で活用することができる「G Suite for Education」の基本的な操作に関するマニュアル等も公開しています。県立総合教育センターでは、これからも「ICTを活用した新たな学びの創造」に向け、各学校の取組を支援してまいります。



埼玉県マスコット「さいたまっち」「コパトン」



本編はコチラから↑

編集・発行 埼玉県立総合教育センター

令和3年3月 発行

〒361-0021 埼玉県行田市富士見町2-24

TEL 048-556-6164 FAX 048-556-3396 <https://www.center.spec.ed.jp/>

